

1 地質学から見た富士山の特徴

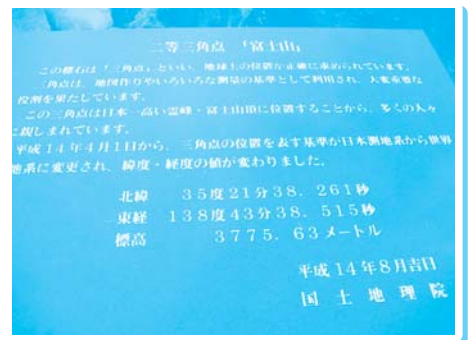
みなさんがイメージする富士山は、あの美しい山容でしょうか。富士山をモチーフにした文学や絵画などの芸術作品でしょうか。

今回は平成19年12月8日(土)に開催された「富士山エコレンジャー講習会」で土会長から講義のあった、意外と知られていない富士山の地質学的な特徴について紹介します。

1 日本の最高峰(3,776m)

国土地理院発表の標高は写真にあるように3,775.63m。四捨五入で3,776mだが、あと14cm低くなったら3,775mとなる。

(2位は南アルプス北岳3,193m、火山は御嶽山3,067m)



2 玄武岩質の火山

陸上の火山であるのに終始「玄武岩質」のテフラ(火山灰、火山砂、火山礫など)と溶岩による活動を続けた。(小御岳火山は安山岩質)

| | | | |
|------|-------|-----------------|----------|
| 玄武岩質 | 海洋の火山 | 粘性が小さく比較的穏やかな噴火 | 三原山、ハワイ島 |
| 安山岩質 | 陸上の火山 | 粘性が大きく爆発的な噴火が多い | 愛鷹山、箱根山 |

富士山はマグマの供給が大量であったため、極めて大きく、高い山となった。

3 緩やかで長い裾野が広がる

円錐型火山(コニーデ)であるが、裾野は全ての方向に緩やかに広がる。山頂近くは30度前後の傾斜だが、1,500m以下は5—6度未満。

溶岩が玄武岩質のため、流れやすく、緩い傾斜の広く長い裾野が出来上がった。

4 体積は日本の火山平均の30倍

体積は約1,200km³と日本の火山の体積の平均40km³の30倍。(愛鷹山:約80km³)
また底面の直径は35-45km。底面積は956km²。

5 若い火山で恒常河川がない

10万年前に誕生し、小御岳を被って成長した若い火山で、恒常河川はない。
(愛鷹山は約40万年前に誕生)

6 側火山の数は日本一

側火山は70以上と極めて多い。伊豆半島は今から1,700万年前、フィリピン東方の熱帯海底火山群だったが、フィリピン海プレートとともに北進し、200万年前までの間に本州に衝突し、今なお押し続けている。

また南南東から北北西に押されたため、この方向で側火山が誕生した。
最大の側火口は宝永火口であり、その直径は富士山頂火口の直径より大きい。



伊豆半島北進と静岡県東部への衝突

7 トラフの頂点に位置する

富士山は駿河トラフと相模トラフの接点、あるいは南海トラフの折れ目の頂点とも言える特異な地点に位置し、それが大規模玄武岩マグマを供給した原因と考えられる。



8 すそ野の末端から多くの湧水

すそ野の末端には三島小浜池、柿田川、湧玉池、白糸の滝、忍野八海等100を超える湧水がある。

これらは御殿場を除く全てのすそ野の末端まで流下した新富士期玄武岩溶岩中の被圧地下水として、2,000年ほど前から湧出している。

